

製本のススメ

Vol. 169

今年の梅雨は長引きますね 先日バーベキューをしましたが、小雨で寒くてビールが進みませんでしたし かき氷の看板も寂しげです。今年大きな地震のあった尾花沢界隈はスイカの産地ですが、冷夏に地震にとご苦労されているのではないのでしょうか。雨も大切ですが 梅雨明けが待ち遠しいですね。

今回は**用語**の話②

背丁(せicho) 正式には刷り本の背部分に付けられる文字で「品名・折名・月号」など何の印刷物で 何番目のものか丁合順がわかるように1折・2折と記載されるものです。

背票(せひょう) 背丁と同時に付けられる墨ベタの潰し印です。これは丁合の乱丁・落丁を**目視確認するために使われる**ほか 裏折り防止にも役立ち、また丁合機への載せ違いや 混入防止に使われます。**背丁と背票はワンセット**になっているため、総称して「背丁」と呼ばれます。残念ながら最近では「背丁」を知らない人が増えてきましたが、これは**製本加工をするうえで大変重要な目印**ですこれがあれば製本加工中 常に丁合や入紙の作業状態が確認でき、検本に使う時間の短縮にもなり、納期遅れを未然に防ぐことができます。特に糸綴り工程では、既に丁合がなされているので、丁合数が間違えると綴りミスが発生します。たった1枚の見落としで全部やり直しということもあります。背丁があれば、その場で発見できトラブルのスムーズな解消ができます。もちろん乱丁や落丁などは製本加工のトラブルですので、製本会社が注意すれば良いのですが、小さなページを1枚ずつ確認しながらの作業では、とても間に合わず製本各社それぞれに工夫もしながら加工を進めています。やはりこの背丁があると数メートル離れた所からでも、不良の発見ができるほど優れた印なのです。ちなみに背丁(品名等)の印刷位置は、どの台にも関わらず同じ位置が良いのですが、**背票は1折・2折と順番を示すもの**ですので、台ごとに印刷位置を変える必要があります。



Teabreak

暑くなればビアホール！でもビールはジョッキで飲めますが、水は飲めませんね。これは胃から後の吸収が違うためだそう。水は少量ずつ十二指腸へ送られ、小腸大腸と通る間で腸壁からのみ吸収されるそうですが、アルコールは胃壁からも吸収されるそうです。またアルコールは利尿作用もあり その結果たくさん飲めるといわけです。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本

instagram は「Atelier703」